

令和4年度第2回学校評議員会実施報告書

1 期日 令和5年1月31日(火) 16:00～17:00

2 出席者

(1) 学校評議員

工藤 靖夫 (岩手町立川口中学校校長)

小澤 啓一 (教育振興会長) 【欠席】

藤原 徳治 (岩手町教育委員)

山口 和顯 (岩手町商工会青年部長) 【欠席】

宮田 京平 (歯科医)

(2) 学校側

校長、副校長、事務長

総務主任、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事

《配付資料》

- ・令和4年度 第2回学校評議員会資料
- ・沼宮内高校の1年

3 会議の概要

(1) 校長あいさつ

本校の教育にご理解とご協力をいただきありがとうございます。今年度コロナ禍で、ご支援いただきながら様々な行事等を行ってきました。次年度につながるようなご意見を頂戴したい。

(2) 学校概況等報告・説明

① 学校経営 (校長)

p.2 が今年度の学校経営計画。3(1)の5つの目標で取り組んできた。具体策は(2)の取組方針に書いてある。

ア. 基礎基本の定着と学力の向上を図る

具体的には授業改善と、家庭学習の定着化。年度末のアンケートで学習意欲が高まったという生徒が95%。P.14～のQ3がほとんどの教科で95%を超えている。

P.18～のQ3では教師側の評価との比較。

イ. 基本的な生活習慣の確立

皆勤者の達成指標 50%だが、後期中間時点では40%。コロナ等による体調不良もあったが、家庭と連携し生活習慣を身に付けさせることが必要と思われる。

ウ. キャリア教育

1月に1名、企業の都合により内定取り消しがあり、現在就職活動継続中。進学はこれから受験1名。探究活動・インターンシップ・公営塾で岩手町から支援をいただき、感謝している。

エ. いじめ防止

学校生活の満足度は年々上がっている。いじめ案件については、外部とも連携して取り組んだ。

オ. 地域

今年度、産業まつりと共催で沼高校祭を行い成功裏に終わった。秋祭りやボランティアでもコロナ禍以前同様の取組ができるようになってきた。

② 学校概況等（副校長）

昨年3月に岩手町と連携協定締結。3年ぶりに対外行事を実施できた。12月の議会への請願は削除。県外生徒のために寮を作る場合は、町が身元引受人となる。

③ 重点目標（各主任）

【総務部】

P T A・同窓会はコロナ禍で自粛した活動もある。卒業式も縮小して開催予定。

【教務部】

授業においてICT機器の活用が進んだ。欠席者へのオンライン授業に取り組み100%ではないが、かなり保証されてきた。ICT活用推進班を立ち上げ、Teamsやロイノートを活用した授業が試行された。今年度、特別教室にもWi-Fiが追加で整備された。

【生徒指導部】

基本的な生活習慣の確立。NGワードと呼ばれる言葉の使用、SNSでの発信、言葉遣いについてなど指導してきた。来年度から全世代での自転車ヘルメット着用努力義務になる。いじめは早期把握を。コミュニケーション講座などを1年生の始めに実施予定。部活動は子供たちが自由に活動できるようなものを検討中。地域と連携した活動も引き続き行っていきたい。

【進路指導部】

ジョブカフェ講師による礼法指導などしていただいている。公営塾を活用し進学者指導の充実を図っている。1、2年生に町内事業所訪問、企業ガイダンスを実施し、地元企業を知る機会を設けている。3年生から1、2年生に進路活動についてプレゼンテーションを実施。ホッケー部の活躍により、ホッケー関係で進学している生徒が多い。その他、岩手県立大学短大・二戸高看に合格している。

④ 学校評価（副校長）

資料のとおり

(3) 意見交換

(藤原評議員)

Q. 学校評価のウに出てくる町と一緒にやっている探究活動とは何をしているのか？

A. 1年生は自己探究や探究手法を高める取組。2年生はインターンシップにからめて、地域課題について商工会、町内企業の方の協力を得ながらグループで探究活動を行った。その成果を沼高祭で発表した。

Q. 公営塾には、どのような生徒が参加しているのか。参加しやすい状況か。

A. 5月から2年生のB2コース（大学進学希望者）の6名の生徒でスタート。冬休み・春休みには1年生の進学希望生徒対象の講座も開講。進学を希望している生徒が参加しやすいよう考えている。

(工藤評議員)

Q. きめ細やかな指導が必要な生徒がお世話になっている。新年度から学級減で教員数も順次減っていくのだと思うが、今まで分けていた授業を一緒に行うなど授業がやりづらくなっていくのかと思う。支援員の加配などできればよいと思うが、見通しをお聞きしたい。

A. コースを増やし、各教科で工夫して行っていく。授業と公営塾とのリンクやスタディサプリなども活用をして、その子にあった授業を行っていききたい。支援が必要な生徒には、岩手町や県にも相談して対応していききたい。

(藤原評議員)

沼高の生徒が増えてほしい。学校見学の際に、子供から部活動は素晴らしいが授業態度があまり良くないように見えたとの話があった。中学生が見に来るときくらいは、生徒の態度を良くした方がよい。県外の生徒を募集するにあたってホッケーだけでなく他の魅力も必要。ゴルフ授業やスキー授業は先生の負担が大きいのではないか。もっと違った魅力ある事業を工夫してほしい。

(宮田評議員)

1年間を客観的に評価しているのはよいが、具体性が見えにくい気がする。魅力発信というところも、何かしなきゃいけないというのはわかるが、具体性が見えないので、もう少し考えていただきたい。ホッケーの印象が強いので、他のところが隠れてしまうということはあると思うが、生徒の学力が向上してきているなら、そちらに思いっきりふるとか、もう少し明確にした方がよい。コンピュータの扱いについては、これからの時代必要なものなので規則を考えさせて指導することは大事だが、ネガティブな方向ではなく、何ができるかといった方向に持っていった方がよい。普段の授業が今後どのように生きていくのか、子供たちはわからない。これを知っておくと将来このように役に立つなど、子供たちの心に少しでも引っかかれば変わっていくと思う。これらをやっていくためには、子供たちが今何を見ているのか(SNSなど)を先生たちも知るべきだ。子供たちに必要なのか、今は見ない方がよいのかなど判断して指導することも必要。

(工藤評議員)

ホッケーも頑張っていたきたい。男子は道を作ったが、女子は人数不足により、沼高を選べない状況。高校生は中学生からはこわい存在。中高連携をやっていって、高校生に対して不安感を持たない取組をやっていければよい。産業まつりの取組はよかった。探究活動など中高で取り組めることがあればよいと思った。

(校長)

貴重な意見をありがとうございます。様々な意見をたくさんいただくことで、検討の参考となる。今後もいろいろご意見をいただければありがたい。

(4) その他

高校の魅力化コンソーシアム及び学校運営協議会について

(副校長)

来年度4月から学校評議員から学校運営協議会に移行を決定。学校運営協議会準備会(コンソーシアム)を2月末に開催する予定。

(校長)

学校評議員から学校運営協議会に移行する。経営方針作成段階から意見をいただく。次年度以降も引き続きそれぞれのお立場からご意見をいただきたい。準備会に向けて次年度事業についてまとめているところです。